

4.成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人市中肺炎の患者さんの人数を重症度別に集計しました。重症度は、成人市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)による重症度分類システム(A-DROP)を用いて分類しました。

定 義

- ◇集計期間に退院した症例
- ◇この集計での成人とは 15 歳以上を指します
- ◇市中肺炎とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します
対象外：入院後発症の肺炎、誤嚥性肺炎、インフルエンザ肺炎、ウイルス肺炎等
- ◇入院の契機となった傷病名および最も医療資源を投入した傷病名が「肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(DPC コード:040080 相当)」に該当し、ICD-10 コードが J13~J18 で始まる肺炎

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	15	15.9	48.7
中等症	42	12.5	74.7
重症	39	18.5	84.6
超重症	17	20.4	84.8
不明	8	26.8	75.8

解 説

当院の肺炎の重症度は中等～重症の症例が多く入院しています。気管支喘息や COPD（慢性閉塞性肺疾患）を合併していると重症化しやすくなります。

入院患者の約 70%が救急車又は開業医からの紹介で来院していますが、来院時点で重症化していることが多い傾向にあります。

重症度と平均年齢は比例しており、成人市中肺炎は高齢になるほど重症になることが分かります。

平均在院日数は重症度による大きな違いはなく、患者の既往症や生活環境等の背後要因によって異なってくる傾向にあります。そのため、当院では入院早期から社会福祉士が介入し、早期退院に向けた取り組みを行っています。